



佐藤建業  
Building a Japanese House  
for the Future.

## 今新田川では 草野橋(くさのほし)



ここは飯館の草野地区にある「草野橋」です。福島市へ向かう途中、トンネル2つを過ぎて最初の橋です。

新田川の支流「股田川」に架かる橋で、上流は「カヨウ」地区までさかのぼります。

(本紙19号で掲載)



いつも何気なく通過していますね。橋はあまり大きくなく、両端には「木槿(むくげ)」の木が茂り、行く季節を惜しむように数輪の花が咲いていました。側道はゆったりと幅広です。昭和38年3月竣工とありました。

交通量はかなり多いですが、南側に工事の新しい道が開通すれば、この橋は少しさびしくなるのかな。。

夏の暑さが残る9月最後の日のドライブでした。

## 大工さん 今日は何んなお仕事？

今回はY様邸の外構工事です。ブロック塀が倒れそうな状態だったので、塀を取り壊して新しくフェンスを設置する工事です。土台には化粧ブロックを1段積んで、その上にアルミ製の目隠しフェンスを取り付けました。以前より風通しもよく、白を基調とした仕上がりになりました！



完成です！

この塀が...

こうなって...



フェンスの新設や交換をご希望される方や、ご自宅のブロック塀がご不安な場合は是非ご連絡ください。



## もうすぐ 薪ストーブ の出番です！

職人さんが、わずが手の空いた時に冬に向けてストーブの薪を準備しています。材料は端材などを使っています。事務所の暖房費が大きく節約できます(^o^) ユラユラと揺れる炎は、日常の急ぐ心をゆったりとさせてくれます。事務所においでになられた時に、是非とも体感してください(\*´ω`)



メラ...メラ...  
パチ...パチ...

薪割りした薪です、エコです♥

## 《社員紹介コーナー》

会長

Dr.義信  
と孫です！



佐藤建業3代目 佐藤義信です。「生かすも殺すも3代目」そう語られる中、多くのお客様にご支援頂きまして、努めて参りました。「引退したいんだ」と言いながらも、現場を走り回っています。昭和25年生まれ、バリバリの団塊世代です。晩酌はビールを軽く。愛犬と散歩が日課です。かわいい孫たちと一緒に遊ぶのが楽しみです(\*^-^\*)

# 《大工さんのアイテム》

## 一輪車 (ネコ)



コッチも見てね! ⇨



お家の外構工事で、土や砂利を運ぶのに一輪車 (通称:ネコ、ネコ車) を見かけますね。…えっ、何でこれがネコ? とお思いの皆さん! 実は…諸説あるのですがどれも説得力がなく、「わからない」というのが正解。(裏返すと猫が背中を丸めているように見えるから、という説。押すときのゴロゴロという音が猫っぽい、という説など…) 由来が不明でも、職人はやっぱりネコと呼びます。

# 残土 (無料) ほしい方募集!

土砂を無料でさしあげます!  
窪地や土地のかさ上げに  
ご利用いただけます。  
運搬もいたします。(。-ω-)  
無料で行いますが、数量に  
限りがありますので  
お早めにご連絡を!



担当 佐藤麻矢  
TEL:0244-22-7619  
またはLINEにて  
ご連絡ください(^^)

LINE QRコード⇨



## 令和4年度 【住宅用太陽光発電設備等設置補助金のお知らせ】

期間 令和5年3月31日まで

福島県と南相馬市の  
内容が異なるので  
表にしました。

	住宅用太陽光発電設備	住宅用蓄電設備	電気自動車充電設備 (V2H)	HEMS (エネルギー管理システム)
福島県	最大160,000円 1KWあたり 40,000円 (4KW分まで)	最大200,000円 1KWあたり 40,000円 (5KW分まで) 注:蓄電池・V2Hの場合、太陽光発電がHIT売電していないこと	最大100,000円 定額 又は	-
南相馬市	最大150,000円 1KWあたり 30,000円 (5KW分まで) 注:蓄電池又はV2Hとの 同時設置であること	最大250,000円 1KWあたり 25,000円 (10KW分まで) 注:蓄電池・V2Hの場合、太陽光発電がHIT売電中でも可能	最大150,000円 又は 設置費用の1/5	最大30,000円 設置費用の1/2

※補助申請総額が予算額に達した場合、募集は締め切り。  
※HIT売電とは、固定価格買取制度に基づく、10年間の余剰売電の事。  
※その他要件あり。  
※南相馬市以外の市町村の方は、各市町村のホームページや窓口にお問い合わせください。



十月は神無月 (かなづき) といいますが、信濃 (しの) の国には神無月はないという、そのいきさつのお話をどうぞ。

## 信濃の国の神無月 長野県民話

ある年の事...

十月に、いつもの通り諸国の神様たちが出雲大社へお集まりになった。だけど、信濃の国の諏訪の龍神様だけが見えない。待てども待てども見えられん。待ちくたびれてしまった。

「信濃の龍神様はどうしたのだ。病気にでもなったか、誰ぞ聞いてないか?」と、どこかの神様が尋ねたら、「なんだ、遅刻かと思っとったが違うのか。」「諏訪どんは丈夫なお方だから病気の方が逃げて行こうさ。」

「しかし、そろそろ会議を開かないと、今月中には審議しきれんのではないか。」「そうだ、いつまでも待っておれんからな。」と、神様たちがざわめき出したそうです。すると、天井から「わしはここだ!」とでかい声が降ってきた。神様たちは、いっせいに天井をふりあおいで真っ青になった。天井の梁 (はり) という梁に龍が巻き付いて、ランランと目を光らせて見下ろしていた。



真っ赤な舌を出し入れするたびに、シュツ、シュツと恐ろしい音もする。

「神様たちは、今にもその舌でからめとられるのではないか。」と腰が引けたそうです。

「近頃わしは勢がめっぽういいでな、体が大きくなりすぎてもてあましがみじゃ。この体は、この社を七巻き半しとるんじゃが尾はまんだ信濃の尾掛 (おかけ) の松にかかるとる。信濃の国は遠いで、こういう姿で空をかけてきたんじゃが、あの松にかかるとる間は姿を変えられんのか。部屋に入って坐ろうかとも思うたが、神々方を驚かせても悪りいと思つて、天井にはりついた。なんなら今からそこへ降りていこうかい。」と言ふなり、龍神様は恐ろしい姿のまま、シュツ、シュツと音をたてて天井から降りはじめたのです。神様たちは龍神様が一旦あばればはじめたら手に負えないので、青くなって「それには及ばん。なるほど信濃は遠い国である。そんなに体が大きくては動くのも大ごとであろう。これからはどうかお国にいて下され。会議のもようや相談は、誰ぞ出向いて知らせにいく。」と言いましたら、

「そうか、それはありがたい。」と、みるみる黒雲に乗って信濃の国の諏訪湖へ帰っていかれたそうです。この翌年から、信濃の国には神無月というのは、それっきりなくなったそうです。

